

## 【概要】2021年度活動報告

一般社団法人 全日本知的障がい者スポーツ協会

【2021年4月1日～2022年3月31日】

### 【月次報告】

月	内容
4月	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍における全国障がい者スポーツ大会に関する全ブロックなどの調整</li><li>・Virtus Asia 理事会（4月23日：斎藤・谷口） ※ZOOM 会議</li></ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍における全国障がい者スポーツ大会に関する全ブロックなどの調整</li><li>・主要支援企業様への協力依頼</li><li>・Virtus 理事会（5月22日：谷口） ※ZOOM 会議</li></ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・主要支援企業様への協力依頼</li><li>・コロナ禍における全国障がい者スポーツ大会に関する全ブロックなどの調整</li><li>・Virtus Asia 理事会（6月4日：斎藤・谷口） ※ZOOM 会議</li><li>・第1回理事会及び社員総会（6月26日） ※書面会議</li></ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"><li>・営業活動 ・事務処理</li><li>・Virtus Asia 理事会（7月9日：斎藤・谷口） ※ZOOM 会議</li><li>・リタリコ Web 出演（7月18日） @中目黒</li><li>・Virtus 理事会（7月10日：谷口） ※ZOOM 会議</li></ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"><li>・営業活動 ・事務処理</li><li>・Virtus Asia 理事会（8月13日：斎藤・谷口） ※ZOOM 会議</li><li>・全国ダウン症アスリート記録会実行委員会①（8月21日） ※ZOOM 会議</li><li>・Virtus 理事会（8月21日：谷口） ※ZOOM 会議</li></ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"><li>・Virtus Asia 理事会（9月10日：斎藤・谷口） ※ZOOM 会議</li><li>・Virtus 理事会（9月25日：谷口） ※ZOOM 会議</li><li>・第2回理事会開催（9月25日） ※書面会議</li><li>・全国ダウン症アスリート記録会実行委員会②（9月15日） ※ZOOM 会議</li></ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"><li>・営業活動 ・事務処理</li><li>・全国ダウン症アスリート記録会実行委員会③（10月1日） ※ZOOM 会議</li><li>・Virtus Asia 理事会（10月14日：斎藤・谷口） ※ZOOM 会議</li><li>・ろうあ連盟定期 MTG（10月21日） ※ZOOM 会議</li><li>・全国ダウン症アスリート記録会実行委員会④（10月21日） ※ZOOM 会議</li><li>・ID 陸上競技ダウン症アスリート大会（10月23・24日）</li><li>・スポーツコーチ会議（10月30日） @名古屋</li></ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"><li>・Virtus 理事会（11月13日：谷口） ※ZOOM 会議</li><li>・アジア・オセアニア大会に関する会議：JPC（11月8日） ※ZOOM 会議</li><li>・アジア知的障害会議_表彰式（11月16日） ※ZOOM 会議</li><li>・国庫補助金事業①（11月27日） @名古屋</li><li>・合同カンファレンス（11月29日） @御茶ノ水</li><li>・全国ダウン症アスリート記録会実行委員会⑤（11月21日） ※ZOOM 会議</li></ul>

12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Virtus Asia 理事会（12月6日：斎藤・谷口） <b>※ZOOM 会議</b></li> <li>・ 第3回理事会開催（12月18日） <b>※書面会議</b></li> <li>・ 国庫補助金事業②（12月11日）@大阪</li> <li>・ 支援企業様への年末報告</li> <li>・ 全国ダウン症アスリート記録会実行委員会⑥（12月21日） <b>※ZOOM 会議</b></li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンバサダー委嘱式（1月6・13日）</li> <li>・ 全国障がい者スポーツ大会関東ブロック全体会議（1月28日） <b>※ZOOM 会議</b></li> <li>・ 国庫補助金事業③（1月15日）@渋谷</li> <li>・ アジア・オセアニア大会に関する会議：JPC（1月17日） <b>※ZOOM 会議</b></li> <li>・ 全国障がい者スポーツ大会関東ブロック全体会議（1月18日） <b>※ZOOM 会議</b></li> <li>・ 全国ダウン症アスリート記録会実行委員会⑦（1月21日） <b>※ZOOM 会議</b></li> <li>・ Virtus 理事会（1月15日：谷口） <b>※ZOOM 会議</b></li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 営業活動</li> <li>・ 国庫補助金清算処理</li> <li>・ 第一回 ダウン症アスリート国内評価方法（FAST）の体制構築ワーキンググループ会議：JPC（2月7日） <b>※ZOOM 会議</b></li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4回理事会開催（3月19日） <b>※書面会議</b></li> <li>・ 新規スポンサーへの働きかけ</li> <li>・ ID 陸上競技大会への企業ボランティアの派遣（3月13日）</li> <li>・ 年度末事務処理</li> </ul>

## 【令和3年（2021年度）度活動概要】

令和3年度（2021年度）も、年度当初より新型コロナウイルスの影響を直接的に受け、様々な面で苦難を強いられた1年であった。まず、国内的な動きで言えば、公益財団法人日本パラスポーツ協会と共催している「全国障がい者スポーツ大会\_ブロック予選会」に関して、昨年度に引き続き、年度当初から全国の自治体へ公式文書の発出に始まり、日々状況が変わるコロナへの対応と呼応して、予選会を各ブロックで実施できるか否かのヒヤリング（メールや電話）をし、その調整を6月までの約3か月間その対応に当たった。ただ、昨年度の教訓や手続きの簡素化、また自治体としても不測の事態に柔軟に対応して頂き、おかげで大きな混乱を招くことはなかった。

次に、国庫補助金を活用し、昨年度、初めて実施した、「医科学的視点から考えるダウン症を含めた知的障がい者アスリートへの安全な指導方法について」に引き続き、今年度は新たなテーマを設定し、拡大研修会を実施した。

具体的には、

- ① 「**月経がパフォーマンスに与える影響～知的障がい者アスリートへの安全な指導方法について～および適正な会計処理について～**」
- ② 「**愛知・大阪における知的障がい者スポーツ（水泳・卓球）の指導者の発掘とその養成**」

である。

いずれの研修会も、コロナの影響を受け、順延に次ぐ順延で、開催そのものが危ぶまれたが、関係者のご協力で何とか無事に全ての研修会を成功裡に終える事が出来た事は、大きな自信となった。特に今回は、東京以外でも開催をするという事もあり、地方との人脈作りを積極的に行え、大きな手ごたえを感じた。次年度（2022年度）は、九州地域へ同事業を展開していくことで調整が行われている。

一方、新たな試みとして、ID 陸上競技連盟や公益財団法人ダウン症協会と連携し、ダウン症アスリートの記録会を**日本で初めて実施**する事が出来た（添付：東京新聞参照）。これは大変大きなチャレンジであり、今後、様々な形でダウン症アスリートの活躍が期待されることとなった（新聞やTV報道でも大きく取り上げて頂いた）。とりわけ、Virtus 主催の国際大会では、II2としてダウン症アスリートのカテゴリーがあるが、今後、II2の選手派遣も視野に入れ国際社会で日本のプレゼンスを発揮する起爆剤になる可能性を秘めていると感じた。

また、それらに連動する形で、2022年11月にオーストラリア（ブリスベン）で行われる、アジア・オセアニア大会の準備は佳境を迎え、毎月のペースで組織員委員会と調整作業を行っている。また、JPCとも今後の仕事の責任や役割についても具体的な協議がなされ、2023年6月のグローバル大会以降の所で、Virtusに関係する作業（主に登録や情報の展開等）は、ANISAが引き受けることで積極的な調整・検討が行われており、これにより更にスピーディーな対応が可能となり、加盟する団体へのメリットが期待できるだろう。

最後に、ANISAに対する資金的な支援に関して、2021年度は、多くの支援企業様から減額・凍結という形でこれまでの通り支援を受ける事が出来なかったが、何とか3年期連続黒字で終わられる見込みである。しかし、来年度以降に関しては、予算を組み立てること

がこれまで以上に困難であり、ANISA 発足当初より計画を進めていた「自主財源」の獲得に向け、本格的かつ具体的な動きをする事が急務となっており、現在、某旅行業者と連携し、一般の知的障がい児者向けのプログラムの開発を行っている。

以上の通り、コロナ禍においても、これまでにないチャレンジもいくつか実施する事が出来たことは大きな収穫であった。

特に、今年度の活動の柱として掲げた国内事業への注力に関しても、研修会を実施するなど一定の成果を出すことが出来た。次年度以降もこうした国内事業に関する様々な取り組みを積極的に行っていきたい。